

家庭科学習指導案

2019年6月7日（金）学習指導Ⅱ（調理室）5年1組 指導者

I 題材 Everyone feels comfortable!—心地よく住もう—

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方についての基礎的な知識と、それらに係る技能

②思考力、判断力、表現力等

室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方について問いを見だし、適切に解決する力

③学びに向かう力・人間性等

家族の一員としてよりよい生活の実現に向けて、風の力を生かして室内の温度や湿度を調節したり、配置や道具の使用、気配りによって不快な生活音を防いだりしようとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 衣食住の生活 (6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫すること。

(3) 題材の価値

本題材では、室内の風通しをよくする窓の開け方や不快な生活音の防ぎ方を考え、それらの方法で教室や家庭の風の通り道づくりや生活音防ぎを行う学習をする。その価値は、以下のとおりである。

夏は気温や湿度が高く、蒸し暑くなる。蒸し暑さは不快に感じるだけでなく、熱中症の原因にもなる。健康で快適に生活するには、蒸し暑さを防ぎ、涼しくさわやかに過ごすことが大切である。しかし、冷房器具の使用は、手軽にできる反面、消費電力の増加や体温調節機能の低下につながる。そのため、限りあるエネルギーを効率よく使い、体温調節機能を働かせるためにも、風の力を生かして室内の温度や湿度を調節する方法も組み合わせることが大切となる。

また、生活に伴って発生する音は、快適な音だけでなく、騒音となる不快な音もある。同じ音であっても、快、不快の感じ方は、その音に対する必要性や時間帯などの状況によっても変化する。そのため、状況に応じて音を調節し、家族や地域の人々が快適に生活するためには、互いに生活音の発生に気を配り、音の防ぎ方を考えていくことが大切となる。

風の通り道づくりや、生活音防ぎを行う際、窓を全開にしたり全閉にしたりすればよいわけではない。生活空間のプライバシーや、家族や地域の人々の生活にも配慮した上で、様々な窓の開

け方や不快な生活音の防ぎ方を試行する必要がある。実際の生活場面では、窓を開けて室内に風を通したいが、外からの不快な音も防ぎたいなど、状況に応じて複数の方法を組み合わせる必要性が生じる。そのため、このような室内の風通しをよくする窓の開け方と、不快な生活音の防ぎ方の2つの課題解決を同一題材内に位置付けることにより、実際の生活場面での状況に応じた複数の方法を組み合わせて解決する力を育成することができる。

これらの活動で考えた方法で風の通り道づくりや、不快な生活音の防ぎ方を家庭で実践することは、風の力を生かして室内の温度や湿度を調節したり、配置や道具の使用、気配りによって不快な生活音を防いだりする基礎的・基本的な知識や技能を実感を伴いながら身に付けることにつながる。本題材の学習を行うことは、子どもたちが、今後の日常生活の中で、家族や地域の人々との関わりを考え、快適な住まい方をしようとする態度を育成することにつながっていく。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、5年「ぴかぴかピフォアアフターー目指せ！お掃除の匠ー」で、汚れの種類や汚れ方などの状況に応じた適切な清掃の仕方を考え、家庭で実践する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「手作りソーイング工房」において、必要な用具を安全に扱い、簡単な手縫いでフェルトを用いて家族に贈る手作りコースターを製作する学習に取り組んできた。そして、家庭で活用したり、コースター以外の製作を行ったりしてきている。これらの学習や生活経験の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① なみ縫いや返し縫い、かがり縫いを試行した結果と、目標とする見本の縫い方とを比較して評価することを繰り返しながら手縫いの仕方を修正し、手縫いの仕方についての知識と、それに係る技能を身に付けてきた。このような子どもたちが、室内の風通しをよくする窓の開け方や不快な生活音の防ぎ方に必要な知識と、それに係る技能を身に付けることができるように、それぞれの方法を試行した結果と、目標とする状態とを比較した評価を基に、適切な方法を話し合う時間を設定する。
- ② 試しのコースターの製作から、家族に贈るコースターの製作へと段階的に製作をし、縫い目の幅がそろった縫い方を考え、工夫してきた。このような子どもたちが、室内の風通しをよくする窓の開け方や不快な生活音の防ぎ方を考え、工夫できるように、模型を用いて試す活動から、教室や家庭で風の通り道づくりと生活音防ぎを実践する活動へと段階的に活動を設定する。
- ③ 複数のコースターの観察で生まれた疑問点や調べたいことを基に、課題を決定し、家族に贈るコースターを製作する方法を進んで追究してきた。このような子どもたちが、室内の風通しをよくする窓の開け方や不快な生活音の防ぎ方を進んで追究できるように、温度や湿度が異なる部屋の体感や、複数の不快な生活音を聞くことで生まれた疑問点や調べたいことを基に、目標とする状態とよりよい生活を実現するための方法を求める課題を決定する時間を十分に確保する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習（6／7時間目）

- 1 ねらい 不快な生活音の防ぎ方を試し、その測定結果を基に適切な防ぎ方を話し合うことを通して、音源となる物を配置する位置や向きの変更、布やマットの使用、気配りをしたり、これらを組み合わせたりして伝わる音を小さくできることが分かる。
- 2 準備 音源 騒音計（アプリの入ったタブレットPC） 検討シート
- 3 展開

| 学習活動と子どもの意識 | 指導上の留意点 |
|--|--|
| <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人も気持ちよく過ごせるように、自分の家でもできる、生活音を小さくする防ぎ方を見付けたいな。 | <p>○不快な生活音の適切な防ぎ方を明らかにするという目的意識をもつことができるように、試す防ぎ方や手順、試した防ぎ方を評価する基準を問いかける。</p> |
| <p>めあて「不快な生活音の防ぎ方を試し、適切な防ぎ方を見付けよう」</p> | |
| <p>2 自分たちで決めた評価の基準を基に、不快な生活音の防ぎ方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーカーの音量を調節して、55デシベル以下にしたけど、自分が聞きたい音楽でないと音が大きく感じて気になるな。 ・模型の窓にカーテンに見立てた布を下げたら、音の大きさが小さくなって、さっきより気にならなくなったよ。 ・カーテン生地の厚さを変えることでも、音を防ぐことができそうだよ。 <p>3 適切な防ぎ方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達は、スピーカーの向きを変えて音を測定すると音が小さくなると言っていたな。カーテンに見立てた布とスピーカーの向きを組み合わせたら、もう少し音が小さくなるのではないかな。 ・スピーカーの向きの変更とカーテンに見立てた布を組み合わせてもう一度試したら、音が50デシベルぐらいに下がったよ。 ・どれか1つの方法よりも、いくつかの防ぎ方を組み合わせた方が、伝わる音をより小さくすることができるな。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活音を小さくする防ぎ方がいくつも分かったよ。自分の家に合う防ぎ方をやってみたいな。 | <p>○防ぎ方による音の大きさの違いを比べることができるように、騒音計での音の測定とともに、音の感じ方をペアで伝え合うことを助言する。</p> <p>○目標とする状態との同異を判断できるように、音の測定結果をペアごとに設定した3段階で評価するよう促す。</p> <p>○不快な生活音の防ぎ方を再考できるように、試した防ぎ方によって複数回行った音の測定結果と、そこから分かる改善点を検討シートに記述するよう促す。</p> <p>○共有した効果を基に、試した防ぎ方を取り入れる可否を判断できるように、それぞれが試した防ぎ方や測定結果を伝え合うよう促す。</p> <p>○不快な生活音の適切な防ぎ方の効果を実感することができるように、効果の高い防ぎ方や、それらの組み合わせを再度試すよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">位置や向きの変更、マットやクッション材の使用、気配りにより音を小さくしたり、それらの防ぎ方と効果を記述したりしている。</p> <p style="text-align: center;"><行動観察・検討シート①></p> </div> <p>○家庭で生活音防ぎをする意欲を高められるように、「自分がしたこと」「分かったこと」「今後取り組みたいこと」を視点に振り返りをするよう促す。</p> |

指導と評価の計画（全7時間）

| | | | | |
|----------|---|---|--|--|
| 目標 | 風の力を生かした室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方が分かり、日常生活に生かそうとする。 | | | B(6) 関連：A(3), C(2) |
| 評価規準 | <p>(①知識及び技能)室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方が分かり、室内の温度や湿度の調節をしたり、生活音を防いだりすることができる。</p> <p>(②思考力、判断力、表現力等)室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方について問いを見だし、室内の室内の風通しをよくする窓の開け方、生活音の防ぎ方を考え、工夫している。</p> <p>(③主体的に学習に取り組む態度)風の力を生かして室内の温度や湿度の調節をすることや、不快な生活音を防ぐことに興味をもち、風の力を生かして室内の温度や湿度の調節をしたり、家族や地域の人々との関わりを考え、配置や道具の使用、気配りによって不快な生活音を防いだりしようとしている。</p> | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価項目<評価方法(観点)> |
| 見つめる・つかむ | 1 | <p>○室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方についての疑問点や調べたいことを考え、課題をつかむ。 課題：「心地よく生活するために、室内の風通しをよくしたり、不快な生活音を防いだりするには、どのようにしたらよいのだろう」</p> | <p>○風の力を生かして室内の温度や湿度を調節することや、生活音を防ぐことへの関心を高められるように、風の流れや、温度や湿度が異なる複数の部屋や、校内の複数の生活音の録音を用意する。</p> | <p>◇室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方について、疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③></p> |
| | 家庭 | <p>○家庭で室内の風通しのよい部屋や、風通しのよくない部屋、また、その部屋の温度や湿度を調査する。 ○家庭で聞こえる快適な音と不快な音を調査する。</p> | <p>○室内の風通しと窓の開け方の関係に着目できるように、窓や扉の位置を記録できる学習プリントを用意する。 ○音に対する感じ方の違いに気付けるように、自分や家族の音の感じ方を整理できる学習プリントを用意する。</p> | |
| | 1 | ○学習計画を立てる。 | ○室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方を明確にしていく学習の見通しをもてるように、快適な室内の温度や湿度の目安や、騒音の環境基準の資料を用意する。 | ◇室内の風通しをよくする窓の開け方や、不快な生活音の防ぎ方を追究する方法について考え、試行する内容や手順、試行した方法を評価する基準を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②> |
| 追究する | 1 | ○模型を使い、風の通り道のつくり方を話し合う。 | ○風の通り方を目で確かめながら、室内の風通しをよくする窓の開け方を具体的に考えられるように、開閉できる窓が複数ある部屋の模型と、その模型の中に充満させる煙を用意する。 | ◇自分たちで考えた室内の風通しをよくする窓の開け方を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②> |
| | 1 | ○教室で風の通り道づくりをする。 | ○風通しをよくする窓の開け方は、室内の温度や湿度を調節できることを理解できるように、温湿度計と風の通り方を可視化できるスズランテープを用意する。 | ◇風の入口と出口をつくることで、室内の温度や湿度が調節できることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①> |
| | 1 | ○学校内の生活音を測定し、不快な生活音の防ぎ方を話し合う。 | ○学校内の様々な場所の生活音を調べられるように、ペアごとに騒音計アプリの入ったタブレットと記録用紙を用意する。 | ◇防ぎたい不快な生活音や、試してみる防ぎ方を記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言②> |
| | 1 | ○生活音防ぎをする。(本時) | ○不快な生活音の防ぎ方を検討できるように、試行した生活音の防ぎ方の改善点や適切な防ぎ方を記述する検討シートを用意する。 | ◇位置や向きの変更、マットやクッション材の使用、気配りにより音を小さくしたり、それらの防ぎ方と効果を記述したりしている。 <行動観察・検討シート①> |
| まとめる・広げる | 家庭 | ○家庭で風の通り道づくりや、生活音防ぎを行う。 | ○自分だけでなく、家族も心地よく生活できる窓の開け方や不快な生活音の防ぎ方を考えられるように、家族へのインタビュー欄を設けた学習プリントを用意する。 | |
| | 1 | ○家庭で風の通り道づくりや、生活音防ぎを行った結果や感想を話し合い、題材の振り返りをする。 | ○室内環境を快適にする意欲をさらに高められるように、話し合う際の観点として、「さらに取り組みたいこと」を提示する。 | ◇家庭で取り組んだことのよさを基に、自然を生かして室内の温度や湿度を調節しようしたり、家族や地域のために生活音を小さくしようしたりする思いを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言③> |